

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	小城市立牛津小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・国語科の「読み取る力の系統表」を作成し、学年で身につけなければならない事項や力を確認し、指導に生かした。学習したことを他の教科や生活の中で活用することで、基礎基本の定着と確かな学力につなげていくことができている。校内研では、引き続き「書くこと」「読むこと」と関連づけながら、表現力・思考力を高めていく必要がある。</p> <p>・人権教育の更なる充実と個別の教育相談の定期的実施等、個々に寄り添いながら児童の自己肯定感を高められた結果、問題行動も少なかったと考えられる。さらに道徳の授業の工夫や縦割り班活動を充実させていき、子どもたちの主体的学びにつなげていきたい。</p>
------------------	---

2 学校教育目標	心豊かに進んで取り組み、津保美っ子の笑顔が輝く学校 ～学校・家庭・地域の豊かなつながりを通して～
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>①校内研究では、自分の考えを可視化し、めあてに迫る話し合い活動「つぼみタイム」の充実により、「主体的に考え行動する児童の育成」を目指す。</p> <p>②道徳だけでなくすべての教科において、子ども一人一人の自己肯定感・有用感を育む授業や活動の工夫を行い、豊かな心を育てる。</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価			主な担当者	
(1)共通評価項目				進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	最終評価			学校関係者評価
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組				実施結果	評価		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・学年単位でマイプランを揃えることで、学年共通した学力向上対策の実践に取り組む。						伯野(学力向上コーディネーター) 橋田(研究主任)	
	○指導力を磨き、統一した指導法で取り組む	○県学習状況調査等で、すべての領域において「おおむね達成」する。 ○国語の学習アンケートで「学習した内容をふだんの生活の中で、話したり書いたりすることに生かしている」と回答した児童85%以上。	・校内研究、授業参観推進月間、日々の情報交換等のチーム力によって、個々の指導力を高める。						伯野(学力向上コーディネーター) 橋田(研究主任)	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「考え、議論する」道徳授業の実践。 ○年6回の人権教室の実施と充実。	・学校全体で、計画的・継続的に児童の心に届く人権教育や道徳に取り組む。						坂本(道徳教育推進教師) 西(人権・同和教育担当) 各学年主任	
	●いじめの早期発見、積極的認知、早期対応体制の充実	○学校生活を肯定的にとらえている児童80%以上。 ○いじめを見逃さないという職員の意識の涵養。	・いじめ・心を守る日(毎月10日)と連携させた「月の心」アンケートを実施し、いじめの早期発見につなげる。 ・月1度の児童連絡協議会における、いじめ、問題行動等の全職員の共通理解。 ・事態の内容や問題を的確に把握し、情報連絡を密にし、その後の方向性を明確にする。またスピード感のある指導・対応を行う。児童や保護者への周知・理解をきめ細かに行う。						内田(生徒指導主任) 奥田(教育相談主任) 各学年主任	
●健康・体づくり	○「出番・役割・承認」のサイクルを大切に、児童のやりがいや自己肯定感を高めながら心を育てる。	○集会活動や委員会活動等では、毎回児童の主体的活動の場を設定する。	・児童の自主性や意欲を尊重した学校行事、児童会活動、学級活動を充実させる。						鹿江(特別活動部 部長) 各学年主任	
	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい生活習慣の形成」 ○健康に、食事は大切であるという意識を高める。	●1週間の総運動時間を「0分」と回答する児童を全国平均(男子3.6%、女子4.7%)を下回る。 ●自分の体や健康に関心をもつ態度を育てる。	・クラスごとに「スポーツチャレンジ」の目標を定め、運動に取り組ませる。 ・全校で「なわとび期間(3学期)」を設定する。 ・必要なコロナ感染症防止対策を継続的に実施し、衛生検査等の結果を児童に知らせ、意欲的な取組にする。 ・「給食週間」「ふるさと食の日」の実施を通して、児童や保護者へ食の大切さを周知する。						坂井(保健主事) 松原(保健体育部 部長) 松村(学校栄養職員) 瀬上(食育担当) 松尾(養護助教諭)	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●慣習にとらわれず、業務のやり方などを工夫し、超過勤務時間を、昨年度より削減する。 ○各担任の学級・教科経営をサポートするメンター的組織を営み、負担を和らげる。	・校内働き方改善委員会で、働き方改善のアイデアを出し合い、適宜取り組みを生かす。 ・コミュニケーションや同僚性を大切に、働きやすい雰囲気のあるチーム牛津小(職場)にする。						校長 統括事務長 教頭	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価			主な担当者	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見直し	達成度(評価)	実施結果	評価		学校関係者評価
○特別支援教育	○特別支援教育の充実 ※特別支援学級10学級(知的2、情緒6、病弱1、肢体1) ○UD教育の実践	○児童連絡協議会を月に1回、拡大児童連絡協議会を学期に1回行い、児童理解と対応策を全職員で確認する。 ○UDの視点を取り入れた授業づくりの研修会を行い、実践的指導や支援の方法を習得する。	・児童一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援を組織的・継続的に行う。 ・全ての職員が特別支援教育・UD教育に関する理解や知識を深めると共に、具体的な実践的指導や支援の方法を習得できるよう、研修の充実を努める。							山田恭、山田由、福田裕 (特別支援教育コーディネーター)
○志を高める教育	○ふるさとを愛する教育	○牛津町が好きと回答した児童が90%以上 ○体験活動・見る・ふれあうなどの学習がすきと回答した児童が90%以上	・地域人材を活用した学習活動を充実させる。「牛津学」の充実。 ・児童によるボランティア活動、社会支援活動等、社会への貢献できる取組を企画する。						教頭、教務 鹿江(総合的な学習担当) 本村(ボランティア委員会担当)	

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--